

お 正月休みに藤岡の観光地巡りをしました。ちょうど、スタンプリリーをしていたので、プレゼントが当たるかもしれないという楽しみもあり、挑戦してみました。高山社と高山社情報館、実は初めて行ってきました。高山社では寒いなか、解説をしてくださったり、高山社情報館でも親切にお蚕様の説明をしてくださったりと……。ありがたかったです。藤岡にいと藤岡の観光地には「いつでも行ける」と思い、なかなか行きませんでした。またいろいろなところへ出掛けてみます。(50代・女性)

主 人が関西出身なので雑煮にイモが入ります。丸もちが手に入らないため、角もちにジャガイモ、合わせみそを使い、我が家流にアレンジしています。元旦はそれぞれ伝統の雑煮ですね。(60代・女性)

お正月に欠かせないお雑煮は地域ごとだけでなく家庭ごとにも味付けや具材が異なり、バリエーション豊かな料理の一つですね。ご近所などでレシピを交換し合うなどして、いろいろなお雑煮を作ってみるのも楽しいかもしれませんね。

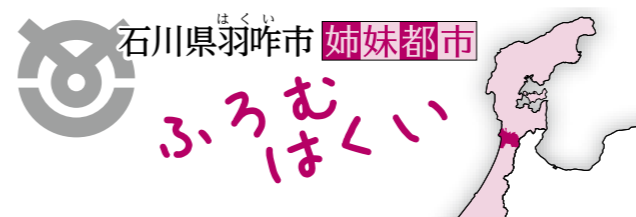
このほか7通のお便りをいただきました。文章は紙面の都合上要約させていただくことがあります。すのでご了承ください。

寄せられた声

ま ちの **声** (📣)

みなさんからの声を紹介します。
※プレゼント当選結果とは関係ありません。

市内には世界文化遺産高山社跡をはじめ、全長250mの藤棚に藤の花が咲き誇るふじの咲く丘、7000本の冬桜が楽しめる桜山公園など、たくさんの観光地があります。ぜひ多くの人にお越しいたいただき、藤岡市の魅力をもっと知ってもらえたらうれしいです。



↑繰り返し冷水をかぶり、平安と多幸を祈願する僧侶。

冷水かぶって平安祈願
寒空の下、圧巻の寒水荒行

元日と2日、日蓮宗北陸本山である妙成寺(滝谷町)で、僧侶が全身に冷水を浴びて身を清め、新年の平安と多幸を祈願する寒水荒行が行われました。

荒行は、両日ともそれぞれ2回ずつ本堂前で行われます。白い下帯姿の僧侶5人が水行肝文と呼ばれるお経を唱えながら、気合い鋭くおけに入った冷水を頭から繰り返しかぶりました。

元日は青空がのぞきましたが、2日は雪が降る中で披露された圧巻の冷水かぶり。大勢の参拝客が写真を撮るなどしてその様子を見守りました。中には目を閉じ、手を合わせて祈りをささげる人の姿も見られました。

プレゼント

皆さんの声を募集します。本紙への感想、身の回りであった出来事や日常生活で感じたことなどをお寄せください。「まちの声」で紹介いたします。
※個別の回答はしません

応募・問い合わせ ハガキかメールに住所、氏名、性別、年齢、電話番号、まちの声を明記して〒375-8601(住所不要)市役所秘書課広報係「まちの声」応募係・hisyo@city.fujioka.gunma.jpへ

お便りをくれた人の中から、八塩館より日帰り入浴券を5組10人にプレゼント。応募締切は2月16日(金)当日消印有効です。

※当選者の発表は10日前後で、引換券の発送をもってかえさせていただきます



日帰り入浴券 2人分

天然記念物三波石の岩風呂で癒しのひとときをお過ごしください。

自然に囲まれた老舗の旅館です。「塩の湯口八ヶ所」と呼ばれる名湯と三波石をぜいたくに使った岩風呂をお楽しみください。

八塩温泉 八塩館

藤岡市浄法寺127 ☎02651
営業時間/正午～午後7時
定休日/不定休

プレゼントの提供者を募集しています。秘書課広報係☎02208までご連絡ください。

耳より情報
今が旬!
「藤岡のイチゴ」

2月になるとイチゴの最盛期を迎えます。本市は県内有数の産地で、市内農産物直売所や観光農園、ららん藤岡などで購入できます。お薦めは、群馬県生まれの「やよいひめ」。サイズは大きめ、果肉はしつかり、中まで薄い赤色。酸味がなく、まろやかな甘みなどが特徴です。また、イチゴにはビタミンCが多く含まれているので、風邪予防や疲労回復、肌荒れなどに効果があります。寒い冬も藤岡の味覚で乗り切りましょう。

関連イベント
いちご&まも祭 2月11日(祝)正午～ららん藤岡
*詳しくは、1月15日号広報2ページをご覧ください

ふじおか Culture
～藤岡の文化を探る～ No.23

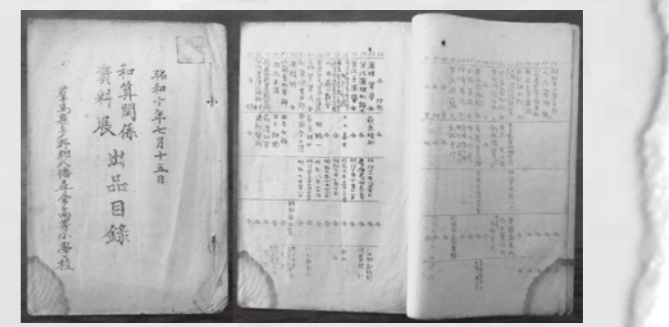
問い合わせ 文化財保護課 ☎0235997

関孝和の研究・貢献により、和算は大きく発展することとなりましたが、後世の和算家たちもまたその影響を受け、多くの著作や資料を残してきました。昭和10(1935)年7月、多野郡内の小学校教員の研修組織・乙種学事会の算術科研修会に併せて「和算関係資料展」が開催されました。会場は八幡尋常高等小学校(現・高崎市山名・木部・阿久津・根小屋町で、高崎市合併以前は多野郡内の村でした。

当展の出品目録を見ると、内容の充実していることが分かります。関孝和の著作に弟子の建部賢弘が解説を加えた『発微算法演段諺解』、関が編んだとされ筆写本として伝わる『毬関変形草解』、『解伏題之法』が載るほか、関流四伝・藤田貞資や彼との論争で名高い最

和算関係資料展
～和算発展の軌跡～

上流の祖・会田安明、関流の目下誠や安島直円、坂部広胖らの名が見え、群馬の和算家たちの著作も並びます。他にも、計算用具の「算木」や、寺社に奉納した数学の絵馬「算額」の写真など、和算の歴史を知る上で重要な資料がそろいます。



和算関係資料展の出品目録